

[成果情報名]糖度が高く減酸が早い良食味のウンシュウミカン新品種候補「長崎果研させぼ1号」

[要約]ウンシュウミカン「長崎果研させぼ1号」は「させぼ温州」の珠心胚由来実生で、11月下旬に完全着色する中生温州である。「させぼ温州」と比べ着果性は良く、糖度は高く減酸が早い。また果頂部突起の発生が少ない。

[キーワード]ウンシュウミカン、させぼ温州、珠心胚実生

[担当]長崎県農林技術開発センター・果樹研究部門・カンキツ研究室

[連絡先]（代表）0957-55-8740

[区分]果樹

[分類]普及

[作成年度]2013年度

[背景・ねらい]

本県産カンキツの既存品種に対する厳しい市場評価と品種の偏りによる出荷集中を解消するため、出荷時期の分散と高品質果実生産を可能とするオリジナル品種の育成が必要となっている。本県オリジナル品種「させぼ温州」は県統一ブランド「出島の華」として市場評価も高く出荷量の増加が望まれているが、着果が安定せず果頂部突起の発生による商品率の低下等により生産量は安定しておらず市場ニーズに十分対応できていない。そこで「させぼ温州」よりも着果性と商品率の良い「させぼ温州」珠心胚由来実生の中生温州を育成し、その品種特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 樹勢はやや強く、枝はやや開張で発生は密である。「させぼ温州」より枝梢の長さ及び節間長は長く、葉身は大きい（表1）。
2. 育成地での露地栽培の成熟期は11/20～30で「させぼ温州」より5日程度早く、11月下旬にはほぼ完全着色となる。果実は果形指数140程度の扁平で、果皮の色は鮮橙、果肉の色は橙である。糖度（Brix）は「させぼ温州」より高く、クエン酸含量は少なく減酸は早い。また果頂部突起の発生率及び発生程度は「させぼ温州」に比べ小さい（表1、2、写真1、2）。
3. 着花量は「させぼ温州」と同程度であるが、着果量は多く収量も多い（表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 平成25年8月12日に品種登録出願公表され、現在審査中である。
2. 「させぼ温州」よりも着果性は良いが生理落果は「させぼ温州」と同等に多いため、開花期の芽かき等による着果安定対策と次年産の着花確保のために秋芽の発生を抑制することが必要である。
3. 高品質果実生産のためにシートマルチ栽培が望ましい。

[具体的データ]

表1 高接ぎ樹「長崎果研させぼ1号」の樹体特性（露地栽培 2012年）

品種・系統	樹姿	枝梢の密度	樹勢	枝梢の太さ (cm)	枝梢の長さ (cm)	節間長 (cm)	葉身の大きさ(cm ²)	葉身長 (cm)	花卉の幅 (mm)
長崎果研させぼ1号	やや開張	密	やや強	中(3.2)	短(8.5)	長(3.0)	中(28.6)	中(9.2)	中(6.5)
させぼ温州	開張	密	やや強	細(2.9)	短(6.6)	長(2.5)	小(25.6)	短(8.6)	狭(5.9)

表1 つづき

品種・系統	成熟期	一果重 (g)	果形 ^z 指数	果皮の色	果肉の色	糖度 (Brix)	クエン酸含量 (g/100ml)	甘味比	果頂部突起 ^x 発生率(%)	果頂部突起 ^y 発生程度
長崎果研させぼ1号	11/20~30	110.2	139	鮮橙	橙	11.8	0.88	13.5	21.3	7.6
させぼ温州	11/25~12/5	119.1	128	鮮橙	橙	11.0	0.97	11.4	33.3	12.4

^z 横径/縦径×100

^y 果頂部突起発生果数/調査果数×100

^x 果頂部突起発生程度：無0、軽1、中2、甚3で50果/樹調査

発生程度 = {(1×軽発生果数) + (2×中発生果数) + (3×甚発生果数)} / (3×調査果実数) ×100

表2 原木「長崎果研させぼ1号」の果実特性（露地栽培 2010~2012年）

品種・系統 ^z	一果重 (g)	着色 歩合	カラー ^y チャート	糖度 (Brix)	クエン酸含量 (g/100ml)	甘味比	浮き皮 ^x 発生程度
長崎果研させぼ1号	106.6	9.7	8.6	11.7	0.80	14.8	0.0
させぼ温州	134.8	9.1	8.4	11.0	0.90	12.3	0.0

^z11月下旬調査

^y 果実赤道の最大値

^x 浮き皮発生程度 = {(1×軽発生果数) + (2×中発生果数) + (3×甚発生果数)} / (3×調査果実数) ×100

表3 原木「長崎果研させぼ1号」の着花量、着果量及び収量（露地栽培 2010~2012年）

品種・系統	着花量 ^z (0~5)	着果量 ^z (0~5)	収量 (kg/樹)
長崎果研させぼ1号	3.0	3.0	11.9
させぼ温州	3.0	2.2	5.5

^z 達観調査：無0、少1、普通3、多5



写真1 「長崎果研させぼ1号」の果実



写真2 「長崎果研させぼ1号」の果実断面

[その他]

研究課題名：長崎オリジナルカンキツの育成

予算区分：県単

研究期間：2009~2013年度

研究担当者：早崎宏靖、古川忠、林田誠剛、谷本恵美子、高見寿隆、根角博久、山下義昭、今村俊清